



令和8年7月15日
第907号

一般財団法人日本遺族会
〒100-0041 東京都千代田区
九段南一丁目六番五号
九段会館テラス四階
電話 03-3261-5521
振替 00160-6-25389 教
編集 発行人 重井 敦
毎月1回15日発行
定価 1部130円(税込)

日本遺族会は国の礎となられた英霊顕彰をはじめ、戦没者の遺族の福祉の増進、慰藉救済の道を開くと共に、道義の昂揚、品性の涵養に努め、世界の恒久平和の確立に寄与することを目的とする。

令和9年度 予算要望

平和の語り部拡充強化へ

全国戦没者遺族代表者会議

日本遺族会は6月30日、来年度政府予算の概算要求に向け、自由民主党会館で全国戦没者遺族代表者会議を開催した。平和の語り部事業の拡充強化を最重要事項に据えて、出席した関係省庁、自由民主党国会議員に、戦争体験者と次世代が学校等で児童・生徒に向け語り部として記憶を継承することの重要性を伝え、次世代育成費の拡充、国際親善交流の充実等を訴えた。

全国戦没者遺族代表者会議には、全国の遺族代表235人が自由民主党会館8階ホールに集結し、開催された。

会議は、國政隆昭副会長の開会の辞で始まり、水落敏栄会長は冒頭の挨拶で、「戦没者への慰霊追悼は平和を心に刻む貴重な機会。人生をかけて、

確実に記憶を次世代へ伝え、児童・生徒に思いを繋ぎ、次世代の語り部を育成する」と決意を表明した。

そして、上野賢一郎厚生労働大臣、松本洋平文部科学大臣、高橋克法総務副大臣、小林鷹之政務調査会長、逢沢一郎遺族議員協議会会長、有村

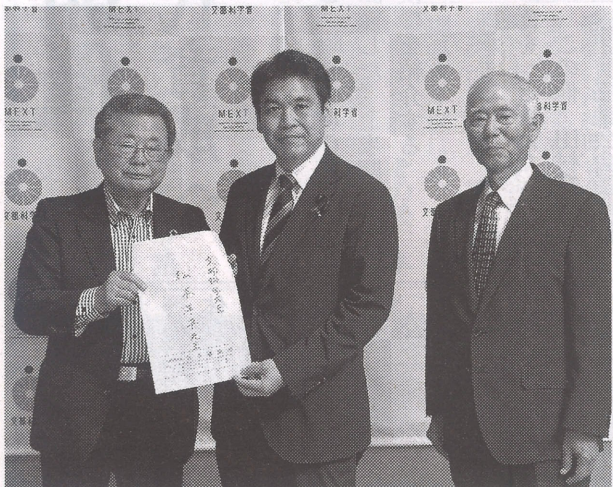
語り部事業周知依頼 文科大臣・厚労大臣へ要望

6月12日水落敏栄本会会長、宮寺賢一小平市遺族会会長、重井敦次長他担当職員は、松本洋平文部科学大臣に面会した。

昨年、文科省は厚労省からの協力依頼を受け、各都道府県教育委員会等へ2回(5月、12月)事業の周知、活用を通知した。結果、学校等における講話が前年度比約4倍増の808回を数えた。

水落会長は文科省の協力に対し、感謝を伝え、今年度も同様の通知の発出を依頼した。

大臣の地元小平市宮寺



地元小平市の宮寺会長と共に語り部事業の周知を依頼
= 6月12日、文部科学省大臣室で



上野厚生労働大臣に協力依頼発出を求める水落会長
= 6月16日、厚生労働省大臣室で

遺家族議員協議会総会を開催 次世代育成費の拡充を要望

6月26日、遺家族議員井敦事務局次長が要望の協議会総会が開催され、本会より水落敏栄会長、國政隆昭、安齋満副会長が出席した。

水落会長より依頼増の要因となった文科省通知の要約と、大石綾子常務理事が決議案を朗読。副会長が意見発表した。



遺家族議員協議会総会
= 6月26日、自由民主党本部で

その後、重増額を要望。その後、重

井敦事務局次長が要望の協議会総会が開催され、本会より水落敏栄会長、國政隆昭、安齋満副会長が出席した。

水落会長より依頼増の要因となった文科省通知の要約と、大石綾子常務理事が決議案を朗読。副会長が意見発表した。

その後、重増額を要望。その後、重

井敦事務局次長が要望の協議会総会が開催され、本会より水落敏栄会長、國政隆昭、安齋満副会長が出席した。

謹 哀悼

支部長交代

宮城県で

宮城県で役員改選が行われ、新会長が就任した。

宮城県で役員改選が行われ、新会長が就任した。

日本には昔から「涼をとる」という文化、習慣がある。視るからに涼しげな金魚鉢、食べると頭がキンと冷えるカキ氷、風に揺られて音を奏でる風鈴。玄關先に撒いて気温を下げる打ち水、縁側ではのかに香る蚊取り線香といった五感で夏を感じる日本ならではの生活様式はいかにも風流である。樋口一葉は「飛ぶ虫、ひかりさびしく、見ゆるまなでなつはふかくもなりにけるかな」と、淋しく輝く虫の光に命のはかなさを感じながら、過ぎ行く夏を詠んでいるが、校庭に低く舞う赤とんぼの群れ、夕暮れ時に「カナカナカナ」と鳴くひぐらしといった、夏の終わりを感ずる子供のころの思い出が誰にでもあるのではないだろうか。昨今は地球温暖化の影響によって、局地的な豪雨をもたらす線状降水帯の発生や毎年のように更新される最高気温などで、災害、熱中症対策を優先しなければならぬため、涼を味わう余裕もなくなっている。夏はエアカンが効いた室内から、せめてベランダに置いた行灯つくりの朝顔でも眺めて、涼をとろう。(S)

平和の語り部大会を開催

記憶を継承し次世代育成へ

本会は遺族の記憶と地域の歴史を体験者と次世代青年部が共に伝え、戦争の悲惨さ、平和の尊さを児童・生徒と共に考える各種企画を毎年実施している。昭和100年記念「記憶継承」をテーマとした企画を6月29日から3日間にわたり開催した。上半期のハイライトとなった「平和の語り部大会」の熱気に包まれた会場の模様を紹介する。

6月29日、本会は語り部事業の広報と育成を企図した昭和100年記念「平和の語り部大会」を、自民党本部ホールを貸し切り、盛大に開催した。開会式で水落敏栄本会長は「喫緊の課題は次世代育成。記憶を継承し語り部へ」と呼びかけた。多くの国会議員が駆けつけ、拡大一心会（戦没者の子、孫、ひ孫、甥、姪をつくる国会議員の会）を代表して坂本哲志衆院予算委員長（孫）が挨拶に立ち「直に体験を聞ける今こそ、次世代へ継承するコンテンツの制作を」と訴えた。この他、田村憲久遺族議員協議会会長代行、渡辺猛之事務局長、堀内り子総務副大臣、中野英幸総務大臣政務官（婿）、玉泉青年部長（孫）、西山尚利議員（福島県青年

女性部「語り部」研修会を開催

求められる効果的な学校講話

日本遺族会女性部は昭和100年記念平和の語り部研修会として、昨年に続き「女性部」に求められる語り部」をテーマに、より具体的な学校講話の効果的な内容、動画制作、パネル制作のための座談会を開催した。冒頭水落敏栄本会長は学校講話が令和6年度比4倍増となったことに謝意を述べた。喫緊の課題は次世代育成とし、青年部全国結成を導いた女性部の力添えを依頼した。田中玉喜女性部長は同日午前に行われた代表者会議のスローガンを読み上げ、女性部から語り部を広げ次世代を育成しようと呼びかけた。次に、本部より研修会の意図を説明。次世代の講話を補完する体験者の



スローガンを読み上げ、次世代育成へ協力を求めた田中玉喜女性部長＝6月30日、九段会館テラスで

記憶証言映像の制作が求められた。その後、体験者の語り部として、瀬長和枝女性部長が沖縄戦を伝える講話を披露。住民を巻き込んだ地上戦の最中、母の決死の覚悟で生まれた自身の生い立ち、ガマや捕虜収容所での悲惨な暮らしや教員退職後、遺族会活動に本格的に始め、先輩方に倣い参加した遺骨収集について話した。また、戦争の話をしながら母から90歳を過ぎ、かつて捕虜収容所で母乳を分けて頼みに来た父子はどうしただろうと問われ胸が痛んだことに



赤ちゃんの戦争体験を通して平和を考えよう
瀬長 和枝
一般財団法人 日本遺族会 会長 6月30日

沖縄戦について講話する沖縄県瀬長和枝女性部長＝6月30日、九段会館テラスで

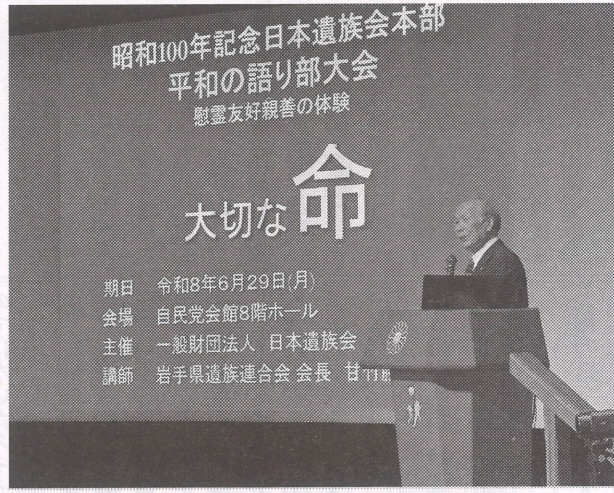
母を総立ちで合唱した。次世代として荒堀修一、本会ブロックアドバイザー（兵庫県遺族会青年部）が講話。加西市鶴野飛行場跡を平和学習の場に再開発する仕事をきっかけに遺族会活動へ参加するようになった荒堀氏は同市制作の平和学習資料（スライド）を使用して戦中の児童のくらし、同飛行場から特攻として散華された方々の遺書から伝える講話を披露。次世代として模索しながら語り部事業を広げたいと語った。その後、記憶継承（戦没者を忘れさせない英霊顕彰）の意味を再考する映画「日本遺族会三十年のあゆみ」、学校講話に使用するため福島県遺族会が制作した動画を視聴

部長、孫）も駆けつけた。冒頭本部より大会意図、全国の事例が紹介され、記憶継承の動画制作等の説明があり、その後体験者、次世代其々の講話が披露された。体験者として甘竹勝郎本会常務理事（岩手県遺族連合会会長、遺児）が「大切な命」を講話。甘竹氏は社会科教員から大船渡市長へ転身、遺族会をはじめ各種団体への講演活動は年間100件以上。豊富な知識、経験から戦争の背景、父との別れ、母の労苦、苦学した学生時代を伝え、現役引退後、初めて訪れた父の戦没地で驚くほど大き



語り部大会に駆けつけた坂本哲志衆院予算委員長（戦没者の孫）＝6月29日、自民党本部ホールで

な声で「お父さん」と叫んでいた語り、息子の復員を信じた母の切なさを伝える歌謡曲「岸壁のザー」（兵庫県遺族会青年部）が講話。母を総立ちで合唱した。次世代として荒堀修一、本会ブロックアドバイザー（兵庫県遺族会青年部）が講話。加西市鶴野飛行場跡を平和学習の場に再開発する仕事をきっかけに遺族会活動へ参加するようになった荒堀氏は同市制作の平和学習資料（スライド）を使用して戦中の児童のくらし、同飛行場から特攻として散華された方々の遺書から伝える講話を披露。次世代として模索しながら語り部事業を広げたいと語った。その後、記憶継承（戦没者を忘れさせない英霊顕彰）の意味を再考する映画「日本遺族会三十年のあゆみ」、学校講話に使用するため福島県遺族会が制作した動画を視聴



慰霊友好親善事業の体験を通じた語り部を披露する甘竹勝郎常務理事＝6月29日、自民党本部ホールで

触れ、語り部事業で記憶を継承する決意を語った。次世代として、長崎県連合遺族会青年部副島真紀さんが絵本の読み聞かせから伝える講話を披露。副島さんは、図書ボランティアで出会った絵本「すみれ島」をきっかけに、祖母から海軍飛行兵

として戦死した大祖父のことを、中国戦線から帰還した祖父から戦場の様子を聞いて育った経験から戦争に纏わる絵本と大祖父のアルバムの紹介を始め、夏休み前に学校にアルバムを貸し出し、児童に考えてもらう取り組みを説明。戦後生まれとし

て家族の記憶から平和を伝えたいと思いを語った。記憶継承のための学校講話に使用する動画の先行事例（福島県、東京都、静岡県、本部）を視聴した。大場盛子福島県女性部長（本会女性部副部長）は本部は、体験のない次世代が講話する際の補完資料として、証言動画の制作を求めた。

静岡県庁制作の動画より、慰霊巡拝から父への思いを語る動画、忠霊塔から戦争と平和を考える動画と、加えて記憶継承を再考する「日本遺族会三十年のあゆみ」を視聴。本部は、体験のない次世代が講話する際の補完資料として、証言動画の制作を求めた。

性部の活動を称えた。会を総評した田中部長は、研修会には出席者も多く内容も含め大きな成果が挙げられた。また、第37回理事会で審議・承認された「終戦80年からの組織強化3カ年計画」、「英霊顕彰運動の経過並びに今後の運動方法」、「令和9年度政府予算に要望事項」をはじめとする12項目について事務局の説明があり、評議員からは、「平和の語り部事業推進は遺族会活動の明暗を左右する要の大事な事業、本部がリーダーシップをとっていることに感謝したい」と労いがあつた。他に特別弔慰金の継続と増額に加え、支給要件の緩和、次世代への継続支給などについて意見が交わされた。

また、第37回理事会で審議・承認された「終戦80年からの組織強化3カ年計画」、「英霊顕彰運動の経過並びに今後の運動方法」、「令和9年度政府予算に要望事項」をはじめとする12項目について事務局の説明があり、評議員からは、「平和の語り部事業推進は遺族会活動の明暗を左右する要の大事な事業、本部がリーダーシップをとっていることに感謝したい」と労いがあつた。他に特別弔慰金の継続と増額に加え、支給要件の緩和、次世代への継続支給などについて意見が交わされた。

「修学旅行先にも多い原爆投下について」、「平和へのメッセージ」とブロックで様々な意見が出された。懇親会には加藤明良議員（拡大一心会、孫）なども承認された。

また、第37回理事会で審議・承認された「終戦80年からの組織強化3カ年計画」、「英霊顕彰運動の経過並びに今後の運動方法」、「令和9年度政府予算に要望事項」をはじめとする12項目について事務局の説明があり、評議員からは、「平和の語り部事業推進は遺族会活動の明暗を左右する要の大事な事業、本部がリーダーシップをとっていることに感謝したい」と労いがあつた。他に特別弔慰金の継続と増額に加え、支給要件の緩和、次世代への継続支給などについて意見が交わされた。

「慰霊の日」 沖縄県 平和祈願慰霊大行進 語り部の「体験型」一環として

6月23日、沖縄は23万余の尊い命が失われた地上戦が終結して81年目の「慰霊の日」を迎えた。県内各地で戦没者の冥福を祈る慰霊事業が執り行われる中、本会は沖縄県遺族連合会と共催の第65回沖縄平和祈願慰霊大行進を昭和100年記念事業「平和語り部研修会」とあわせて開催。全国各地から遺児、孫、甥、姪等54人が参加した。

81年前の沖縄戦では、住民を巻き込んだ激しい地上戦で、20万人以上が犠牲となった。県はこの犠牲を風化させないため旧日本軍の組織的戦闘が終わったとされる6月23日を「慰霊の日」と定めている。

昭和36年琉球政府が定めた「慰霊の日」に鑑み、翌37年より本会は沖縄県遺族連合会と共催で平和祈願慰霊大行進を実施している。コロナ禍で中止された3年間を除き、重ねられてきた大行進には、今年も全国から戦没者の遺児をはじめ孫、甥、姪等を招き、54人が参加した。

22日、那覇市内ホテルでの結団式に続き、沖縄協会の主催で沖縄全戦没者追悼式前夜祭が摩文仁の沖縄平和祈念堂で挙行され、開式、献火、献鐘と続き、献花では、行進団の代表として松尾敏一奈良県遺族会会長が花を捧げた。

23日、県内外から約350人がひめゆりの塔に参集し出発式を開く。我部政寿沖縄県遺族連合会会長、水落敏栄日本遺族会会長が挨拶し、沖縄戦の遺児代表らが横断幕を掲げて出発した。



ひめゆりの塔を出発し摩文仁を目指す行進団
= 6月23日、糸満市で

今回の行進は、平和の語り部事業の「体験型」の一環として行われ、行進団は先人たちの歩んだ道程を平和への祈りを込めて送り、ひめゆりの塔から糸満市の摩文仁まで約4キロを行進。猛暑の中、苦難の撤退を体験した。出発から約1時間半後、摩文仁の平和祈念公園に到着し、沖縄県主催の全戦没者追悼式に参列した。

式典には高市早苗内閣総理大臣をはじめ、衆参両院議長が揃って参列し、開式。式辞、黙祷に次いで我部沖繩県遺族連合会会長が追悼のことばを述べ、玉城デニー沖縄県知事の「平和宣言」に続き、「平和の詩」では、豊見城市立豊崎中学校三年の亀谷琉奈さんが朗読。文

初の語り部研修会を開催 平和祈願慰霊大行進で

6月24日、第65回沖縄平和祈願慰霊大行進全体を語り部研修と位置づけた企画として、昭和100年記念平和の語り部研修会を沖縄で開催した。

22日、結団式で水落敏栄本会会長は、22日から24日までを語り部研修と捉え参加してほしいと呼びかけ、同日の前夜祭に向かう車中より説明を開始。(22日、23日の詳細は別掲)

24日の初の語り部研修会では、沖縄県我部政寿会長が凄惨な沖縄戦の記憶を遺族会の責務として



平川さんの講話の感想、記憶の継承を話し合った座談会
= 6月24日、沖縄で

たガマや捕虜収容所での状況、復興までの長い道のりを伝え、「命が宝」と訴えた。

また、パラオでの戦争体験を伝えた平川信子氏は

「私は幸せな家族生活から一転、戦況の悪化から父が現地に召、母子での苦難の様子を涙ながらに伝えたい。私が話すことで犠牲となられた方の供養になれば」と語った。

その後、参加者54人中、半数が次世代の座談会では、亡き友の遺志を継いで(遺児、父の思いを胸に(次世代)、出来ることから積み重ねる、大行進が繋いだ縁を紡いで(次世代)等の感想や、活発な意見が交わされ、来年の再会を約束し、講話・対話・体験・複合形態の研修会は好評のうちに終了した。参加者は後日報告書を提出し、本部は次年度に向け研修内容の充実を努める。



研修会後の集合写真 = 6月24日、沖縄で

本会への賛助金のお礼
本会の活動に賛同し、賛助金を寄せていただいた左記の方々に対し、心よりお礼申し上げます。

なお、賛助者の都道府県名については、送金方法により居住地が特定できない場合があります。省略します。

賛助者名(敬称略・カタカナ名は銀行振込、漢字名は現金書留等)

本庄節、木田ヤエ子、木村千春、小池充徳、原田民子、深澤英樹、山下明、野見山正美、小野洋、井本和彦、榮貴代、ウエノレイコ(以上、5月28日)

本会事業
参加者の皆様へ
本会の事業に参加するに当たり、得た個人情報(「個人情報保護法」の定め)を、厳重に扱い、第三者に提供することはありません。日本遺族会の個人情報保護方針につきましてはホームページを参照するか、本会にお問い合わせください。

同夜、沖縄県遺族連合会の方々と懇談会が開かれた。

戦没者の孫、ひ孫ら次世代を担う参加者らは今回体験した感想を語り、戦没者遺児と世代を超えて交流を深めた。



全戦没者追悼式会場に横断幕を持って入場する遺児と次世代代表 = 6月23日、摩文仁平和祈念公園で

追悼のことば

一般財団法人 沖縄県遺族連合会
会長 我部 政寿

本日、ここに沖縄県主催による「令和8年沖縄全戦没者追悼式」が執り行われるにあたり、戦没者遺族を代表して謹んで哀悼の誠を捧げ、諸霊のご冥福を心からお祈り申し上げます。

今年は、あの凄惨を極めた沖縄戦終結から81年、肉親を亡くしたご遺族の心情を察するとき、その傷はあまりにも深く今も癒える事はありません。

1945年米軍は、沖縄諸島に上陸し沖縄戦が始まりました。

3月16日に慶良間諸島、4月1日には、沖縄本島に上陸、日米両軍の激しい戦闘が一般住民をも巻き込んで三カ月余にわたり繰り広げられ日米両軍、軍属、一般住民あわせて、二十万余の尊い命が失われました。

戦没者諸霊は、激しかった沖縄戦及び外地において祖国の安泰を願い家族を案じつつ遂に尊い生命を祖国のために捧げられたのであります。今、霊前に立ち、在りし日を偲び諸霊に対する追慕の情は更に深く、新たな痛恨の念が胸に迫ることを禁じ得ません。今日の平和と繁栄は、皆様犠牲の上に築かれたものである事を私達は決して忘れてはなりません。

沖縄戦終結から81年が過ぎた今も世界に目を向ければ2022年に始まったロシアの軍事侵襲によるウクライナ戦争、4年を経過した今なお戦争は続いています。近年のイスラエルのパレスチナ自治区、ガザ地区への攻撃、レバノン・イランとの戦闘状態が続く中東情勢も緊迫しており、一旦起きた戦争を終わらせるのは非常に困難であることを示しています。

私達戦没者遺族は、戦争遺族をつくる如何なる戦争にも反対し、世界の恒久平和の訪れる事を希求するため、県内各地、全国から遺族、それに賛同する人々が参集し、英霊の顕彰と平和運動を推進するため本島南部の激戦地米須から摩文仁まで平和祈願慰霊大行進を実施しております。高齢となった遺族と戦争を知らない孫やひ孫世代が一緒になって行進に参加しております。

先代から受け継いできた戦没者遺族会、その遺児たちは戦後81年の歳月で高齢になり、これからの遺族会の組織の維持活動も困難になることが危惧されます。

しかしながら私達には戦争の悲惨さと平和の尊さを訴え、二度と戦争の惨禍を繰り返さないために次世代へ伝承していく責務があります。

戦没者遺族会では、ありふれた日常が戦争によって奪われた話など、地域の歴史を交えて、平和の尊さを学ぶ機会として、学校現場へ向けて「平和の語り部事業」を実施しております。戦争の無い、平和な社会を目指し、後世代へ戦争と平和について考える事業を実施していく所存です。

終わりに鑑み戦没者の皆様、安らかに眠りくださいまして私たちの上に限りなきご加護を賜りますよう祈念申し上げ追悼のことばと致します。

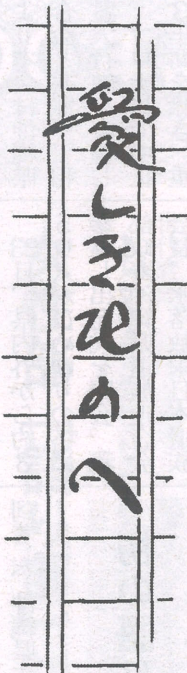
令和8年6月23日

語り部事業
定期講話会

ミャンマー遺児友好親善報告
次世代学生との座談会

戦争体験者の遺族と次世代が共に記憶の伝承に取組む本部主催第16回定期講話会。テーマは「ミャンマー遺児慰霊友好親善事業」。最終実施となった本年3月の参加者からの報告と戦後の体験、慰霊、遺骨収集の活動を通して思いが語られた。参加者の3分の2が次世代、その半数が学生となり活発な意見交換がなされた講話会を伝えたい。

6月11日に開催されたの最終実施地域ミャンマーの報告、訪問をきつ頭本部よりミャンマー慰霊友好親善訪問団の報告。令和7年度で惜しまれながら終了した本事業とする遺児の思いと同行



家内一同様

海軍三等兵曹 弦間 貢

昭和十六年十一月六日

千葉県・東京海軍通信隊船橋分遣隊にて公務死
山梨県東山梨郡勝沼町出身 二十歳

謹啓 本日御便拜受熱讀いたしました。

天恵の慈雨と待ち侘び下り、致々として家業にいたしむ家内の様子が目の邊浮かんて来ます。重大時局の折柄、皆健康との由唯々嬉しく思はれます。其の後小生からも御便差上げ様とは常に存じつゝ、日々軍務多忙にまぎれて失禮申し上げました。悪しからず御寛恕下さい。

(中略) 其の後の生活につき一寸御知らせ申し上げます。

昭和十六年度寒稽古は十三日より三十一日迄施行されました。小生は満足でした。毎朝約一時間の猛訓練に於て一回たりとも落伍せず、常に最后迄頑張り得た事は、これも皆の御蔭として有難く思つてゐます。日に〳〵国際関係も複雑化して来り、吾が海軍の第一線に雄躍奮闘し得る時期も程近い事と思ひます。

御國に献けし身体、何時なりとも死に合決心で、多忙な軍務に毎日〳〵元氣よく従事いたしてゐます。

一生懸命勉強して通校にも早く行き度き決心です。(中略)

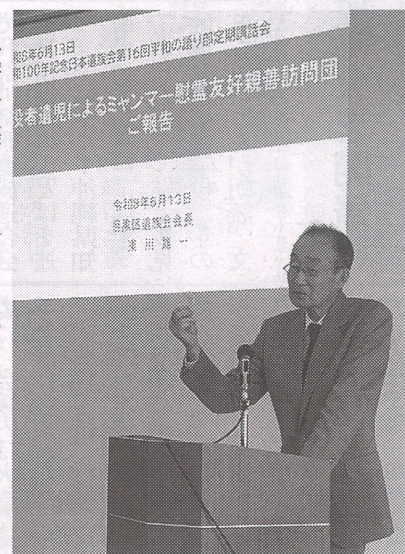
向寒の折、皆様の御健勝切に御祈りします。

一月三十一日

家内一同様

【令和八年七月靖国神社頭掲示】
愛しきものへ

話。東川会長は自身の戦後の体験から語り始めた。戦後一年半経過してから届いた戦死公報には「野戦病院で戦病死」と記載してあったが、戦後戦友(世話役)により作



小学生の時に受けた遺骨に代わる砂を見せる
東川会長 6月11日、九段会館テラスで

成された遺族を慰めるための記録で自身は信じていなかったが、初めてミャンマーを訪ねた際「病院ではなく、誰にも看取られることなく亡くなった。これが現実」と確信したと語り、夫の消息が分からないこの時期が母の一番つらかった時期と偲んだ。

東川氏は学生時代、戦後の社会の変容に伴う教師の言葉、遺児に対しての冷やかな視線を感じつつ育ちながら、大学進学後、恩師と出合い、すべての出会いに感謝した。母が父の弟と再婚し

たことにより家を継いだ事情もあり、定年退職後に父を思い遺族会活動に参加し、慰霊巡拝参加をきっかけに遺骨収集事業にも参画したと語り、事業実施のため、相手国自治体、関係機関との調整が非常に大切と話し、遺骨収集、慰霊巡拝とも現地の協力なしに不可能であり、交流を継続することの重要性を示した。

続いて体験者・次世代・学生の座談会では次の質疑応答があった。

問1：旧戦域への慰霊巡拝について
答：慰霊へ行つて、遺族会活動、遺骨収集事業に参画した。次世代と共に行く意義がある(体験者)。旧戦域に興味がある。誰でも行けるような機会があれば(次世代)。

問2：次世代が記憶を継承する方途について
答：遺族会活動の周知が記憶の継承(体験者)。家族、友人身近な人に伝える(体験者・次世代)。社会

九段短歌

作品を
お寄せ
ください

選者 村田 信昌

青森県 田中 恭子

山形県 菊地 幸子

千葉県 石橋 嘉子

山梨県 三森 一雄

滋賀県 雨森 貴子

父の顔も知らずに生きし八十年今日は父の日遺影に拝す

水が湧き筆をぬらした壕はいま二坪の窪地つめ草埋む

戦争の体験話語り部に同じ痛みを吾も遺児なり

七ツの空は戦火の記憶持つ千葉市が受けた七ツ空襲

今日こそは戦争の記事ない事を期待しながら新聞を待つ

父の顔も知らずに生きし八十年今日は父の日遺影に拝す

滋賀県 雨森 貴子

父の顔も知らずに生きし八十年今日は父の日遺影に拝す

父の顔も知らずに生きし八十年今日は父の日遺影に拝す

科の教員を目指していた、この学びを伝えたい。報道機関に内定し、発信する側になりたい(次世代)。暗記する学びではなく、考える歴史にフォーカス。参加者は報道等への発信に加え、より身近な人へ、遺族以外に広く伝える重要性を共有認識を終了した。

次回は、8月8日次世代による遺骨収集の講話会を開催予定。沢山の参加をお待ちしている。

昭和館の3階企画展会場では、昭和100年記念特別企画展「めくるめく紙芝居」が7月18日(土)から9月6日(日)まで開催される。

「Ⅱ. 戦争と印刷紙芝居の活用」では、戦時下に焦点を当てる。国策宣伝のための手段として注目されるようになった印刷紙芝居の役割や、兵士・疎開児童の娯楽として用いられた紙芝居を展示する。

展示は三部構成になつており、「Ⅰ. 印刷紙芝居の誕生と展開」では、印刷紙芝居が誕生し、児童への教育・普及を目的に発展していく様子を紹介する。

「Ⅲ. 印刷紙芝居の再出発」では、戦後、業界全体として民主化を目指し、学校教育や保育現場での活用を目指した足跡を概観する。

昭和100年記念
特別企画展
めくるめく
紙芝居
— 館蔵印刷紙芝居コレクション —
入場無料
2026年
7.18(土)・9.6(日)
会場 昭和館 3階特別企画展会場
開館時間 10:00~17:30(入館は17:00まで)
休館日 月曜日(7/20)、木曜日(7/23)、土曜日(7/25)
〒100-0001 千代田区千代田 千代田区教育委員会

お詫び
本紙6月(第906号)発行の4面「九段短歌」で、作品の作者を山梨県・土屋嘉雄氏と記載しましたが、正しくは「三森一雄」氏の誤りでした。ここに訂正し深謝いたします。

九段短歌
作品募集
日本遺族通信の九段短歌では、読者の皆様の作品を募集しています。

地方だより
各支部遺族会で実施された大会等は次の通り。
北海道 6月4日
第57回全道戦没者遺族大会(180人)
秋田県 6月4日
令和8年度一般財団法人秋田県遺族連合会第十四回評議員会(48人)
岩手県 6月17日
令和8年度岩手県遺族連合会研修会(132人)